

2025（令和7）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅱ期

現代の国語・言語文化（60分）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで問題を開かないでください。（開いた場合は不正行為とみなします。）
2. 問題冊子は17ページあります。ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に氏名、フリガナ、受験番号をそれぞれ正しく記入・マークしてください。受験番号は、受験番号欄の上部に10桁の番号を算用数字で記入し、下部に番号をマークしてください。正しく記入・マークされていない場合、採点の対象となりません。
4. 解答する2科目（1時限目：「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、2時限目：「現代の国語・言語文化」）のうち、どちらか1科目を傾斜配点（得点を1.2倍にする）の対象とします。傾斜配点科目の選択方法は、解答用紙の＜記入上の注意＞を参照してください。
5. 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。なお、正しくマークされていない場合は、採点できません。

（例）解答番号1に対して、⑤と解答する場合

解答番号	解 答 記 入
1	① ② ③ ④ ⑤

6. 訂正箇所は、消しゴムできれいに消してください。
7. 解答欄には、関係のない符号や文字あるいはメモなどを記入しないでください。
8. 試験終了後、解答用紙を訂正することは一切できません。
9. 解答用紙を折ったり汚したりしないでください。
10. 問題冊子の余白部分は、適宜利用してもかまいません。
11. 声を出して問題を読んではいけません。
12. 不正行為について
 - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ②不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
 - ③不正行為を行った場合は、全ての科目が失格となります。
13. 気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせてください。
14. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

現代の国語・言語文化

(解答番号は

1

39)

一 次の文章を読んで、後の問い(問1～9)に答えよ。 解答番号は 1 13。

現代はタッチパネルの時代である。タッチパネルとはなにか。それは、ある映像機器企業のウェブサイトで、「画面に直接触れることにより、コンピュータの操作が行える装置のこと」であり、「表示と入力」の2つの機能を(ア)融合したデバイス」だと定義されている。

この(ア)簡潔な定義のなかに、本論で問題にしたいタッチパネルの特徴はすべて出揃っている。まず、タッチパネルは接触(触れること)に関わっている。つぎに、タッチパネルは情報機器に対して能動的に働きかける(機器の操作が行える)。最後に、タッチパネルは出力(表示)と入力の二面性を備えている。

これらの特徴は、タッチパネルの本質が、従来「スクリーン」と呼ばれてきたものとは大きく異なることを意味している。タッチパネルは英語ではタッチスクリーンと呼ばれている。実際、日常の感覚としては、タッチパネルは「触ることのできるスクリーン」そのものであり、歴史的に「スクリーン」と(イ)総称されてきた、映画やテレビやコンピュータで利用するあの映像装置の進化形にはかならないように見える。双方ともに同じ矩形の平面であることも、連続的な印象を強めている。

しかし、現実には、タッチパネルは、さきほどの三点においてスクリーンと本質的に異なる特徴をもつ平面である(ここからさきはタッチパネルとスクリーンを対置して議論するため、タッチスクリーンという名称は避けることにする)。スクリーンは(B)専用の平面だったが、タッチパネルは(C)を受け入れる。スクリーンに投影された映像は触ることができなかったが、タッチパネルに投影された映像は触ることができる。スクリーンの映像は触っても変化しないが、タッチパネルの映像は触ることで変化する。映像を見る主体と映像の関係が、スクリーンがタッチパネルに進化する過程で大きく変わっているのである。

タッチパネルの映像は触ることができる。そして触ると変化する。Dこのような「触知可能で操作可能な映像」の出現は、じつは、いままでの映像論とメディア論を、さらにはそれらを支える伝統的なパラダイムを大きく揺るがしかねないものでもある。古くは(注)プラトンの洞窟の比喻まで遡るように、西洋の哲学は伝統的に、影と実体、「にせもの」と「ほんもの」、あるいは「見えるもの」と「見えないもの」の対立を中心に思考を組み立ててきた。目や耳で知覚可能な世界はしよせんは影で「にせもの」にすぎず、感覚から隠れたところに、(b)知覚できない世界にこそ実体があり「ほんもの」があるのだという発想が、哲学の中心にあり続けてきた。

そのような二項対立は、二〇世紀の精神分析や映画論にも受け継がれている。映画のスクリーンに投影される映像（見えるもの）は触ることができない。それは影であり「にせもの」にすぎない。影は触ることができないし、操作もできない。c 学問は、影に囚とらわれるのではなく、影をつくり出すカメラ（見えないもの）のほうに向かわなければならない。精神分析の言葉でいえば、想像界ではなく象徴界に向かわなければならない。それは、二〇世紀にいたっても、人文知を支える根本的な二項対立のままだった。

d、タッチパネルの映像、つまり「触知可能で操作可能な」影の出現は、まさにそのような二項対立を（ウ）脅かしている。そこでは、「にせもの」が「にせもの」のまま触られ、操作され、「ほんもの」を変化させてしまうのだからだ。

これはけっして抽象的な話ではない。むしろとても具体的な話だ。写真家の大山頭おおやまけんが指摘しているように、写真はかつては指で触れるものではなかった。むしろ指紋がつかないように縁をもつて覗のぞきこむものだった。そもそも触れてもなにも起こらなかった。写真の「ほんもの」はネガにあり（あるいは撮影時のさまざまな機器の設定にあり）、一般に写真と呼ばれるものはその印刷物にすぎなかったからだ。E ところが現在では状況が異なっている。 いまでは「写真」は多くの場合、プリントアウトではなく、スマホのタッチパネルに表示された映像を意味している。そこではだれもが写真そのものに触れ、大きさを変え、回転させ、色彩を調整し、スタンプを押し、フィルタを適用し、ネットにアップロードし続けている。表示画面という「にせもの」に触れることは、データという「ほんもの」を改変することに直結している。写真はスマホの出現によって、見えるけれど触れることができないものから、見えてかつ触れることができるものに変ってしまった。その変化は、むしろ新たな写真表現も生み出している。

それはとても大きな変化はずだが、残念ながら、その意味を明らかにする議論はほとんど行われていない。表象文化論やメディア論では、レフ・マノヴィッチが二〇〇一年に刊行した『ニューメディアの言語』がいまだに参照される。けれども同書では、タッチパネル（touch screen）はいちども（エ）言及されず、触れる（touch）という単語すらほとんど現れない。『ニューメディアの言語』は、一九二〇年代のロシアの映画監督、ジガ・ヴェルトフへの言及から始まっており、「ニューメディア」といいながらあくまでもスクリーン時代の映像論にとどまっている。けれども、いまぼくたちが必要としているのは、まさにそのスクリーンの限界を（オ）画定し、そのさきについて語る映像論ではないかと思われる。

いずれにせよ、ぼくたちはもはやスクリーン（だけ）の時代には生きていない。二〇世紀のスクリーンは受動的で視覚的な平面でしかなかった。二一世紀のタッチパネルはそこに能動性と触覚性を加えた新たな平面である。多少（エ）こねれない表現ではあるが、そのようなタッチパネルの性格を触視的しゅしつてきという言葉で表現してみよう。触覚と視覚が組み合わさった複合感覚という意味だ。

触視的平面の誕生。それこそが二〇世紀後半から二一世紀にかけて起きた、きわめて重要なメディアの変化なのではないかというのが、ぼくの仮説である。

（東浩紀『観光客の哲学 増補版』より。本文中に一部省略したところがある。）

（注） プラトンの洞窟の比喩——古代ギリシアの哲学者プラトンが、真理についての自身の考えを説明するために用いた比喩。生まれたときから洞窟内で身動きできない状態に置かれた人々が、背後の火によって壁に映し出された「影」を「実体」だと思い込んでいるというもの。

- 問1 傍線部（ア）～（オ）の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。
- | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| （ア） | 1 | ① | とうごう | ② | ゆうごう | ③ | かんごう | ④ | しゅうごう |
| （イ） | 2 | ① | そうしょう | ② | そうけん | ③ | そうごう | ④ | そうじ |
| （ウ） | 3 | ① | そその | ② | おどろ | ③ | おびや | ④ | そびや |
| （エ） | 4 | ① | げんじゅつ | ② | げんしょう | | | | |
| | | ③ | げんか | ④ | げんきゅう | | | | |
| （オ） | 5 | ① | かくてい | ② | がてい | ③ | かくじょう | ④ | がじょう |

- 問2 傍線部（a）「簡潔」の対義語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 6。
- ① 漠然 ② 冗長 ③ 総合 ④ 複雑

- 問3 空欄 b ・ c ・ d に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 7。
- | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|------|
| ① | b | つまりは | c | だから | d | ところが |
| ② | b | それでも | c | しかも | d | だが |
| ③ | b | さらに | c | ゆえに | d | すると |
| ④ | b | すなわち | c | しかし | d | では |

- 問4 傍線部（e）「こなれない」の本文中における意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 8。
- ① 難解な ② 不明瞭な
- ③ 馴染みがない なじ ④ ぎこちない

問5

空欄 A C に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① A 入力 B 入力 C 出力
- ② A 出力 B 出力 C 入力
- ③ A 入力 B 出力 C 入力
- ④ A 出力 B 入力 C 出力

問6

傍線部D「このような『触知可能で操作可能な映像』の出現は、じつは、いままでの映像論とメディア論を、さらにはそれらを支える伝統的なパラダイムを大きく揺るがしかねないものでもある。」とあるが、筆者がそのように述べるのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 触れることが可能なタッチパネルは、スクリーンの映像は触っても変化しないというこれまでの映像論の概念とは相容れ^{あひい}ないものであり、これまでの映像論で評価されてきた作品の価値を否定するものであったから。
- ② タッチパネルの登場は、実際に目や耳で知覚できないものまでも、あたかも現前しているかのように感じさせることを可能にし、人々が認識する「ほんもの」と「にせもの」の境界を曖昧にするものであったから。
- ③ 表示画面という「にせもの」に触れることで、データという「ほんもの」の改変を可能にするタッチパネルの存在は、実体である「ほんもの」は知覚できない世界にあるという従来の哲学の概念自体と矛盾するものだから。
- ④ 精神分析の世界に照らせば、スクリーンの映像は想像界に、タッチパネルの映像は象徴界に属するものであり、映像論とメディア論を支える哲学の中心が揺らぎ、学問の目指す方向の転換を余儀なくされたから。

問7

傍線部E「ところが現在では状況が異なっている。」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は11。

① かつては指で触れることに慎重になるほど価値を認められていた写真が、スマホの出現によって現在ではありふれたものになってしまったということ。

② かつて写真は被写体を正確に写し取るものと考えられてきたが、様々な加工が可能になったことで、写真に写るものの真偽が不透明になったということ。

③ 以前は印刷物にすぎない「にせもの」とされてきた写真が、映像の変更改が可能になったことで表現の幅が広がり、「ほんもの」の芸術になったということ。

④ 以前は写真は見るだけで触れられない「にせもの」だったが、画像に直接触れて「ほんもの」のデータ自体を加工することができるようになったということ。

問8

この文章における筆者の主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は12。

① 「触視的平面」であるタッチパネルは、目や耳のみで知覚可能であった世界を別の角度からとらえることのできる新しいメディアであり、我々は二〇世紀の西洋哲学の概念にとらわれず、何を「ほんもの」とするかを見定めていかななくてはならない。

② タッチパネルは写真表現において、新たな可能性を切りひらく革新的なデバイスであり、我々はそのスクリーンに映し出される映像を、従来の映像論でとらえるのではなく、さらなる表現の可能性を視野に入れて活用していくべきである。

③ 二一世紀の情報機器の発展により出現した「触視的平面」であるタッチパネルは、従来の映像論やメディア論では論じきれない事態を生み出しているため、我々は旧時代の映像論に終始するのではなく、新たな映像論を構築していく必要がある。

④ スマホの出現によって、映像を見る主体と映像の関係が新たな局面へと突入したいま、映像論はタッチパネルの能動性と触覚性を踏まえたものでなければならず、我々もまたその特徴を最大限に発揮できるような複合感覚を身につけなければならない。

問9

この文章の内容・展開についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は13。

① タッチパネルの出現が果たした歴史的役割という話題を提示し、従来の映像論やメディア論との間に齟齬が生じていることを指摘したうえで、西洋哲学の中心的思想である二項対立の観点から、映像を操作するという行為の意味について考察を加え、メディアの変化について結論を導いている。

② 初めに、タッチパネルの登場によって明確になった「影」と「実体」の本質について、映像を見る主体と映像の関係という観点から考察し、現代の写真家が指摘しているネガとスマホの画面に表示される写真との違いに基づいて、写真が写し出す像の意味を明らかにする議論が重要であることを述べている。

③ スクリーンからタッチパネルへの進化が人間の感覚とものの見方に与えた影響について、西洋哲学の観点から警鐘を鳴らす一方で、メディアについて考察した研究者の論を引用しながら、タッチパネルの映像の加工可能性における「触視的平面」の限界とそれに代わる新しいメディアの必要性を提示している。

④ タッチパネルは従来のスクリーンとは本質的に異なるものであり、その登場が映像論を支えてきた思想の枠組みを根底から覆すことを指摘したうえで、映像の意味の変化について写真家の指摘を踏まえて具体的に説明し、最後に「触視的」という筆者独自の表現を用いて表象文化論やメディア論への提言を行っている。

二

次の文章を読んで、後の問い（問1～9）に答えよ。解答番号は

14

26

私は演劇作品を創ったり、教育番組で放送されるドラマの脚本を書いたりしている。大学では、演劇史や、哲学などを学んだ。また、映像技術入門という三脚を組み立てる授業や、身体ワークシヨップという少し変わった表現の授業も受けた。実際に、演劇作品を創るという授業もあった。しかし、演劇の創り方を教わる機会はなかったように思う。創作の仕方というのは、そもそも決まりが無い。その中で「〇〇をテーマに演劇を創って来てください」と課題が出されても、演劇素人の私は困惑していたのを覚えている。ほとんど観劇経験のない私は、「演劇ってこんな感じだよなあ」と（a）**偏見**に近いイメージで創っていた。大げさな感情表現、暑苦しい表情、日常では聞かない大きな声……このようなイメージを持っていたので、**A 演劇は少し「恥ずかしいもの」と捉えていた**。そしてある時、「演劇ってなんでこんなに恥ずかしいことになっているのだろう」と疑問が湧いてきた。そこで、私は自分なりに演劇について考察しながら創作してみることにした。

そもそも演劇では大きな声を出さなくてはならないわけではなく「静かな演劇」というものが存在した。それは1990年代に注目された現代演劇の一つの傾向で、日常レベルのエネルギー量で演じられる演劇を示している。ただ、声量以外にも、演劇の「恥ずかしさ」として「演技をする」ことが大きな壁としてあった。演劇では、自分とは別の何者かになったり、ここではないどこかに居るように振る舞ったり、時には見えないものに語りかけたりすることがある。（b）**そこはかとなく広がっている嘘の積み重ね**が、とんでもなく「恥ずかしい」。演技は必ずしも嘘ではないが、恥ずかしいと感じているときにはもう「嘘」と化してしまっている気がする。

演劇は、既に戯曲によって設定された場所や登場人物（＝虚構）と、劇場や俳優の身体（＝現前）とが二重になっている。それらの距離を、演じることや舞台美術などで、できるだけ近づけようとする。そのことが、私の思う「恥ずかしさ」を増幅させていた。そこで、この演劇の特徴とも言える二重性をむしろ意識して作品を創ることで、「恥ずかしさ」をすこし払拭できるのではないかと考えた。そうすることで観客も作り手も「嘘」をついていることを共有できる。つまり、堂々と「嘘」を共有することで「恥ずかしさ」は薄くなっていくのではないかと考えた。

では、どのように創作したら良いのだろうか。私は戯曲を書くときにできるだけ虚構に没入しないように心がけている。そのために、（c）**シツピツ**時は劇場の舞台図や、写真をヒン（イ）**パン**に見ている。そして何も見なくても、舞台図を自分で描けるようになるまで描いてみる。その作業と並行して、絵コンテ（のようなもの）を描いている。そこには部屋や駅、道に咲く花など、そのシーンに合わせた背景と俳優がどの方向を向いてどのように立っているかを示す棒人間とが描き込んでいる。私たちの舞台では、セットを組んだり、小道具や衣装を纏（まと）うことがないので、この絵コンテは全くの虚構であるが、一度、紙に描いてみる。舞台図という圧倒的な現前の図と絵コンテという

虚構の図を行ったり来たりしている間に台詞せりふを書く。その際も **B** を意識している。あまりに長い台詞や、状況を説明するような台詞になると虚構の方に加担している感覚になる。なので、なるべく簡潔な台詞になるよう心がけている。その意識を持って書くと、あるリズムが生じるように思う。例えば、

「お腹なかが空すいただろう」

というような何気ない一言も、短くすると

「空いたろ。お腹」

となる。少しでも一文を短くするために体言〓名詞が文末に来ることが増えた。些細ささいな事かもしれないが、名詞を遅らせることで、「嘘」への(ウ)トウタツまで時間を稼いでいるのかもしれない。C お腹が空いていない俳優たちが、お腹が空いていることになるまでの僅かな時間をつくっているのかもしれない。似たようなことが俳優の演技に関しても言える。私たちの演劇における俳優の発話は、役柄の感情に根拠を置いていない。そのためか、「無表情、棒読み」と評される。演出をする際、そのようにしてほしいと明言したことはないが、結果、観客にそのように見えているのにはわけがある。【I】例えば、「ゆっくり 歩く きれいな 女子高生」を演じるように戯曲に書かれていたとする。通常なら、俳優はまず、「女子高生」になろうと制服を着る、あるいはそう見えるように振る舞うかもしれない。【II】そして次に、「きれいな」という部分を再現しようとメイクを(エ)ホドコしたり、そう見えるようにしてから、「ゆっくり」と「歩き」は始める。【III】しかし、私たちはまず、動詞から演技を始めている。つまり、まず、「歩く」。そしてそこに「ゆっくり」という副詞が伴ってくる。そしてその動作主が「きれいな」「女子高生」であることが視覚的にではなく、認識されることを演技としている。つまり、見た目は全く女子高生ではない人でも、動詞を遂行し、会話をしていく中で最終的に名詞である、女子高生のように感じられれば、それは演技である。【IV】直接的にその名詞を表象するだけが演技ではないと私は思っている。このような「嘘」の共有の仕方「恥ずかしさ」を払拭するのに役立つ。無理に何者かになろうと(名詞的な移行を)するのではなく、D 俳優と役柄にある距離を提示したまま演技すること、「これ、嘘なんですけどね」と軽やかに言ってしまうからだ。

このようなことを考えながら演劇を創っていても、未だに「恥ずかしさ」はある。特に(オ)ゲイコ場で自分の考えてきた戯曲を配っているときなど、赤面するほどである。いつも付きまとうこの「恥ずかしさ」からはなかなか解放されない。

(関田育子「演劇は『恥ずかしい』」〈『ベスト・エッセイ2023』所収〉より。)

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は 14 18。

(ア) シツピツ 14

① 彼はシツプウのように現れて去っていった

② 十分に攪拌かくはんしてキンシツにする

③ 先日フンシツした財布が戻ってきた

④ 長年のカクシツを乗り越えて協定を結ぶ

(イ) ヒンパン 15

① 駅前のハンカ街で買い物を楽しむ

② ゲリラ豪雨で川がハンランする

③ 突拍子がなくフンパンもの話

④ 好景気で起こした事業も順風マンパンだ

(ウ) トウタツ 16

① 予約した飛行機にトウジョウする

② 用意シュウトウに計画する

③ ザットウの中で姿を見失う

④ 原油の価格がコウトウする

(エ) ホドコしたり 17

① 友人からシゲキを受ける

② 将来は介護などのフクシの分野で働きたい

③ 二日間にわたって入学試験をジツシする

④ ホウシ活動の一環で寄付を行う

(オ) ケイコ 18

① 昔の人は天変地異を神のケイジだと捉えた

② ピエロがコツケイなしぐさで笑わせる

③ 紀行文が雑誌にケイサイされる

④ ドイツ文学に深くケイトウする

- 問2 傍線部（a）「偏見」と似た意味を表す熟語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は19。
- ① 僻見^{へきけん} ② 卓見 ③ 散見 ④ 邪見

- 問3 傍線部（b）「そこはかとなく」の本文中における意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は20。
- ① はかりしれなく ② 果てしなく
③ なんとなく ④ まぎれもなく

- 問4 次の一文は本文からぬき出したものである。これを戻す位置として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は21。

つまり、名詞↓形容詞↓副詞↓動詞の順に演技が組み立てられていくように思う。

- ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】

- 問5 傍線部A「演劇は少し『恥ずかしいもの』と捉えていた」とあるが、筆者はどのような点に恥ずかしさを感じていたのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は22。

- ① 人前で大声を出し、大げさな表情をあえてつくることで、普段は他人に隠しておきたい自分の本性が露わ^{あら}になる点。
② 役者本人も嘘の積み重ねである虚構の物語を演じているとわかっていながら、平静を装わなくてはならない点。
③ 冷静な観客の前に、日常を超えるエネルギーを発揮して大げさな感情表現をしなくてはならない点。
④ 日常とは違う大げさな表現によって、作りものに説得力を持たせるように仕上げる点。

問6 空欄 B に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 23。

- ① 虚構と現前とのバランス
- ② 舞台図と絵コンテとの整合性
- ③ 「嘘」と「恥ずかしさ」との共存
- ④ 観客を没入させる世界観

問7 傍線部 C「お腹が空いていない俳優たちが、お腹が空いていることになるまでの僅か

な時間をつくっているのかもしれない。」とあるが、筆者は具体的にどういうことを行っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 24。

- ① 体言Ⅱ名詞を文末に置くことで、舞台の説明的な台詞ではなく、日常的な言い回しに近づけて、観客に空腹時の感覚を呼び覚まさせて臨場感を与えている。
- ② 「お腹」という名詞を後に配置し、状況が説明的に伝わるのを避けることで、観客が舞台上で起こっていることを違和感なく受け止められるようにしている。
- ③ 虚構の世界である舞台の上で、俳優たちが台詞に頼らず、自らの演技によってのみ「お腹が空いている」という状況を説明できるようにしている。
- ④ 名詞と動詞の配置を変えることで、虚構と現前のバランスを虚構の方に近づけ、虚構である空腹という状態がより鮮明に観客に伝わるようにしている。

問8

傍線部D「俳優と役柄にある距離を提示したまま演技する」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は25。

① 見た目の印象を通して役柄を視覚的に表すのではなく、動きや会話を通して俳優が演じている役柄を観客に感じさせるということ。

② 俳優が役柄に没入しすぎることなく、俳優自身の個性も残したまま演技することで、役柄の個性を効果的に体现するということ。

③ 役柄の感情を排した「無表情、棒読み」の演技をすることで、舞台という虚構を通して本当に描きたいことを観客に感じさせるということ。

④ 女子高生を演出する際に、あえて全く女子高生に見えない俳優を用いることで、俳優が「恥ずかしさ」を感じるようにするということ。

問9

筆者の演劇に対する考えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は26。

① 演技というものが虚構である以上、自然に見えるよう台詞や舞台の構成などを工夫しても演劇につきまとう「恥ずかしさ」は払拭できるものではなく、脚本家も俳優もその「恥ずかしさ」と対峙^{たいじ}することではしかよいものを創り出すことはできない。

② 演劇は、作り手の「創ろう」という意思だけで創り出せるものではなく、観客の存在があつて初めて成り立つものであり、観客がどう受け止めるかを考えながら、俳優が脚本を解釈して演技を試行錯誤することで、観客を魅了する舞台が生み出される。

③ 俳優の演技によって虚構を描く演劇は、目の前で繰り広げられる「嘘」を「嘘」とわかつたうえで、観客がどこまで楽しむことができるかにその価値がかかっており、そのためには、作り手は「嘘」を描く「恥ずかしさ」を乗り越えなくてはならない。

④ 演劇は、俳優の身体によって虚構を描き出していくものであり、虚構に没入して説明的になるのではなく、現前の俳優が演じているということを観客に感じさせることで、作り手と観客が「嘘」を共有でき、演劇のもつ「恥ずかしさ」が軽減される。

三 次の問い（問1～11）に答えよ。解答番号は ～ 。

問1 次のア～ウの説明にあてはまる語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

ア ためらうこと。

- ① 逡巡 しゅんじゆん ② 横行 ③ 彷徨 ほうこう ④ 乖離 かいり

イ よく注意して見ること。

- ① 慧眼 けいがん ② 眼目 ③ 看破 ④ 刮目 かつもく

ウ 最終的に落ち着くところ。

- ① 帰納 ② 帰趨 きすう ③ 終焉 しゅうえん ④ 収容

問2 「要約。概要。」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① サマリー ② アナーキー ③ シナジー ④ リテラシー

問3 次の各文のうち、敬語の使い方の説明として誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「存ずる」「存じ上げる」は、「知る」の謙譲表現である。
② 「承る」「拝聴する」は、「聞く」の謙譲表現である。
③ 「お見えになる」は、「来る」の尊敬表現である。
④ 「なさる」「される」は、「する」の謙譲表現である。

問4 次の各文のうち、敬語の使い方が誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「すぐに担当者が参ります。」
② 「どうぞ温かいうちに召し上がってください。」
③ 「前方のスクリーンをご確認してください。」
④ 「お目にかかれて光栄です。」

問5 次の各文の傍線部のうち、他と活用形が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 33。

- ① 肌寒いので上着をもう一枚着ます。
- ② 私は妹を連れて駅に行った。
- ③ 英単語を頑張って覚えよう。
- ④ 僕はすでに夕食を食べたよ。

問6 次の各文の傍線部のうち、他と意味・用法が異なるものを、①～④のうちから一つ選

べ。解答番号は 34。

- ① 夜中の読書で寝不足になる。
- ② 暑さで汗が止まらない。
- ③ 雨で大きな水たまりができる。
- ④ 色紙でつるを折る。

問7 次の文の傍線部の「た」と同じ意味・用法のものを、後の①～④のうちから一つ選

べ。解答番号は 35。

- ・壁にかかった絵を眺める。
- ① ようやく課題を提出した。
- ② 穴の開いた靴下を捨てる。
- ③ 昨年の県大会で優勝した。
- ④ 終わったら、教えてください。

問8 次の慣用句のうち、誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 水泡に帰す
- ② 色眼鏡で見る
- ③ 口車を合わせる
- ④ 馬子にも衣装

問9 次の四字熟語のうち、「歯がゆく、もどかしいこと」という意味を表す語句として最も

適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 多岐亡羊 ② 虚心坦懷 きょしんたんかい ③ 慇懃無礼 いんしんぶれい ④ 隔靴搔痒 かつかそうよう

問10 次のうち、四字熟語「 家争鳴」の に入る語として最も適当なものを、①～④のう

ちから一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 一 ② 百 ③ 千 ④ 万

問11 次の故事成語のうち、「互いに争っている間に、第三者が労なく利益を横取りするこ

と」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答

番号は 39。

- ① 漁夫の利 ② 水魚の交わり
③ 人間万事塞翁が馬 さいおう ④ 禍を転じて福と為す な

2025年度 一般選抜Ⅱ期 【国語／解答】

国語

解答番号	正解
1	2
2	1
3	3
4	4
5	1
6	2
7	1
8	4
9	2
10	3
11	4
12	3
13	4
14	4
15	1
16	2
17	3
18	2
19	1
20	3
21	3
22	4
23	1
24	2
25	1
26	4
27	1
28	4
29	2
30	1
31	4
32	2
33	3
34	4
35	2

解答番号	正解
36	3
37	4
38	2
39	1